

えんまん**ITC**ケース研修

# ご紹介

インストラクタ  
一同



# 0.1.研修日時時間(テーマ)

開催日 9:30~18:00	回	テーマ
第1日目 11/5(土)	01	IT経営とは
	02	IT経営の認識
	03	変革構想書
第2日目 11/19(土)	04	経営環境の分析
	05	あるべき姿の構築
第3日目 11/26(土)	06	経営リスクの評価と対応
	07	経営戦略策定
第4日目 12/3(土)	08	経営戦略の展開
	09	業務改革
第5日目 12/10(土)	10	IT戦略
	11	IT資源調達
第6日目 12/17(土)	12	IT導入とITサービス利活用
	13	持続的成長の認識
	14	新たな旅立ち

## 0.2.テーマと検討課題

回	テーマ	検討課題
<b>01</b>	<b>IT経営とは</b>	課題1「変革構想の検討とコミットメント」
<b>02</b>	<b>IT経営の認識</b>	
<b>03</b>	<b>変革構想書</b>	
<b>04</b>	<b>経営環境の分析</b>	課題2「企業理念・使命の確認と経営環境情報収集・分析」
<b>05</b>	<b>あるべき姿の構築</b>	課題3「あるべき姿の構築」
<b>06</b>	<b>経営リスクの評価と対応</b>	課題4「経営リスクの評価と対応」
<b>07</b>	<b>経営戦略策定</b>	課題5「経営戦略策定」
<b>08</b>	<b>経営戦略の展開</b>	課題6「経営戦略の展開」
<b>09</b>	<b>業務改革</b>	課題7「IT戦略の策定と展開」
<b>10</b>	<b>IT戦略</b>	
<b>11</b>	<b>IT資源調達</b>	課題8「IT資源調達」
<b>12</b>	<b>IT導入とITサービス利活用</b>	課題9「IT導入」、課題10「ITサービス利活用」
<b>13</b>	<b>持続的成長の認識</b>	課題11「持続的成長認識」、課題12「変革マネジメント」
<b>14</b>	<b>新たな旅立ち</b>	参加者の変革構想書発表、終わりに

# 0.3.知識共有(ナレッジマネジメント)の場

価値発見、価値設計、価値実証、価値実践

共同化の場「創発場」=価値発見の場  
雑談、飲み会

共同化(**Socialization**)  
暗黙知から暗黙知が生まれる。  
共同体験や話し合いの中  
から新たな気づき、学び、  
アイデアが生まれる

表出化の場「対話場」=価値設計の場  
発表会、会議

表出化(**Externalization**)  
暗黙知を形式知に変換する。  
経験によって得たコツ・  
ノウハウ、アイデアを、  
言葉や図で表現し、  
伝えるもの(YouTube、  
プレゼンテーション)にする

内面化(**Internalization**)  
新たな形式知を体験の場  
に活かし、そこから得ら  
れる暗黙知を獲得する

内面化の場「実践場」=価値実現の場  
診断実習、業務の現場

連結化(**Combination**)  
形式知を、別の視点で  
他の形式知と組み合わせ  
る。チーム演習で新しい  
学びと新たな形式知  
(新たな図解、新たな  
数式、新たなモデル)を  
創造する

連結化の場「システム場」=価値実証の場  
チーム演習、仮想空間



ケース研修を始める前に



## 0.4. ケース研修を始める前に

あらゆる組織に適応可能なベストプラクティスである**IT経営プロセス** (**IT経営推進プロセスガイドライン**) を活用した活動を疑似体験することによって、**IT経営の推進方法**、および**ITコーディネータの業務や使命**を修得する

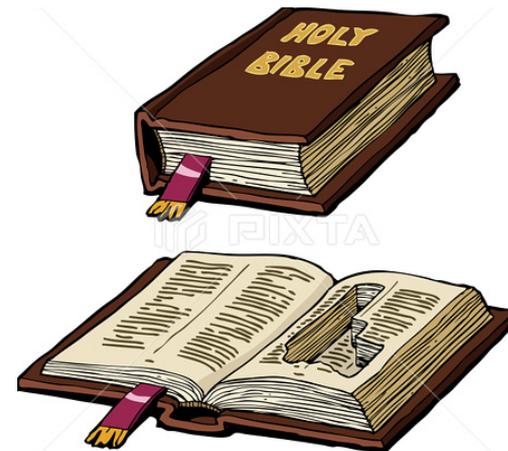
IT経営推進プロセスガイドライン

Ver. 3.0

特定非営利活動法人 ITコーディネータ協会

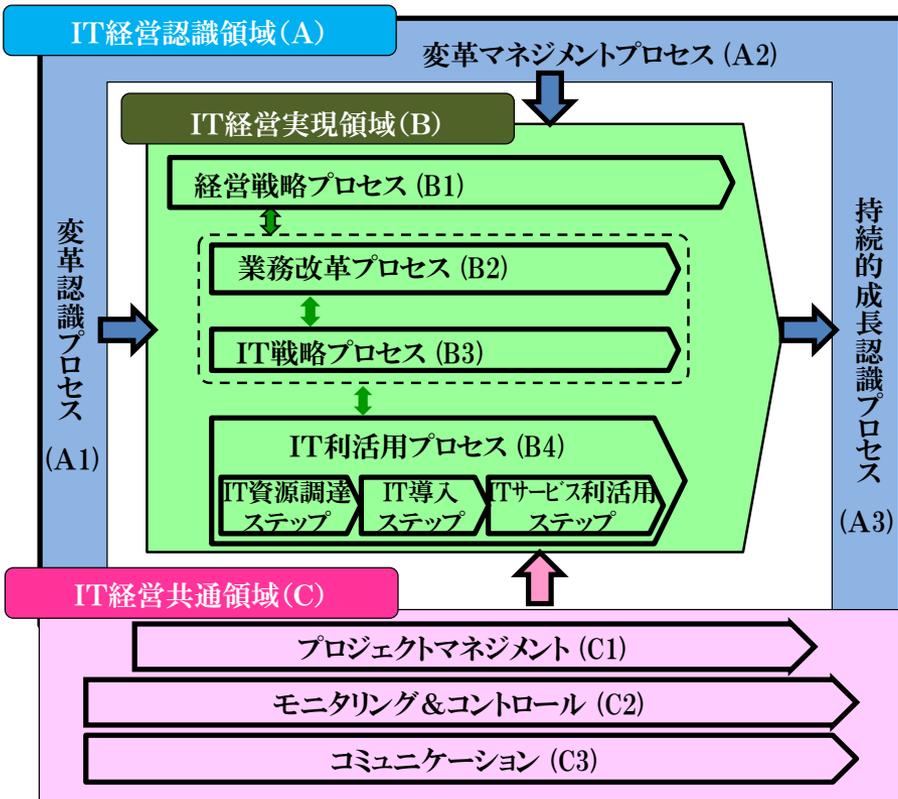


あらゆる組織に適応可能なベストプラクティス



# 0.5. ケース研修を始める前に

どのように目的を達成する  
ケース研修は、「IT経営認識領域(A)」と「IT経営実現領域(B)」  
にわたるIT経営を実践するモデル企業の事例を題材に「グループ討議(チーム演習)」、「ロールプレイ」を通じた模擬体験により、  
ITコーディネータの業務や使命を理解する



**IT経営認識領域(A)**  
経営や組織の変革認識(マインド)を醸成する活動領域

**IT経営実現領域(B)**  
具体的なITサービスの利活用によって経営戦略を実現させる活動領域

**IT経営共通領域(C)**  
領域横断の共通活動を定義する基盤的活動領域

## 0.6.グループとチームの違い

### グループ

「人の集まり」、明確なゴールがなくても、何らかの目的を持った組織だから、同じ役職だから、入社時の同期だから、といった理由でも人の集まりはできる。しかし、それだけではチームとは呼べない。

### チーム(本研修ではこちらを使います)

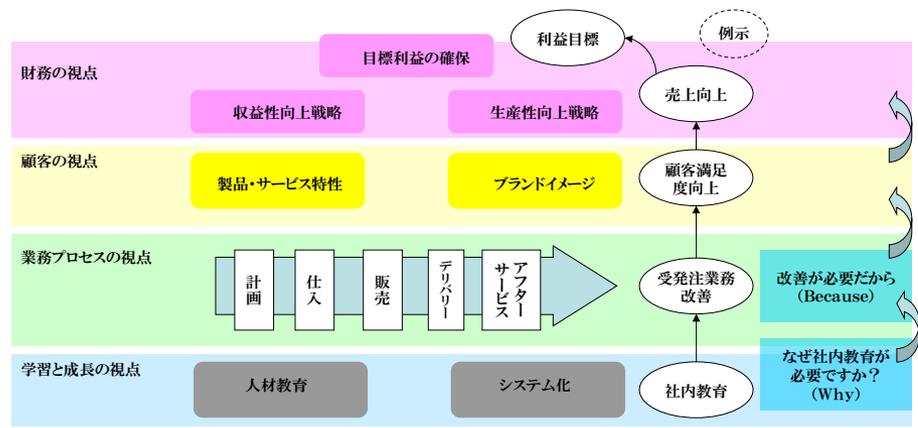
- ゴールが困難でも、目的を皆が理解していて、そこへ向かう過程を楽しんでいる。
- ゴールを達成することで得られる報酬以上に、**チームで活動すること自体から得られる“刺激”や“やりがい”、“達成感”**を求めている。
- 「失敗しないこと」ではなく、「達成すべきゴール」に焦点を当てている。
- 仲間の間での**意見の衝突を恐れない**。**意見をぶつけ合うことから新しい価値が生まれる**ことを知っている。
- それぞれが**責任を果たすことに誇り**を持っている。
- お互いの**よいところを認め合い、敬意を持って**接している。
- 誰も集団のために自己犠牲をする必要がない。
- 誰かが犠牲となってゴールを達成することは美徳ではないと知っている



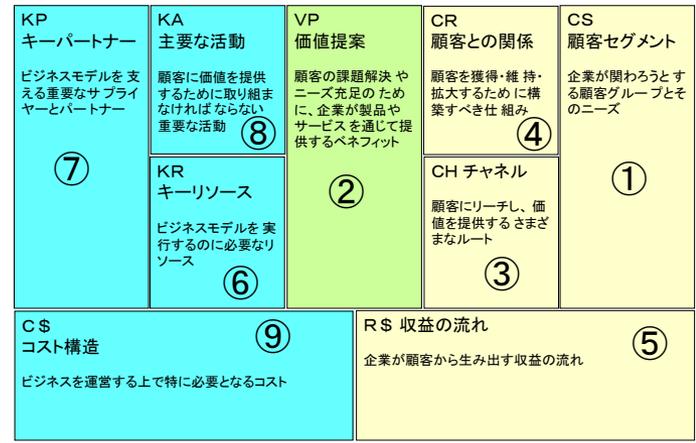
# 0.7. ケース研修を始める前に

どのようなことを学ぶ

IT経営プロセスの理解、ツール類(**BSC**、**経営成熟度モデル**等)の修得、新たな気づきの獲得、人的ネットワークの形成、ファシリテーション能力向上、コミュニケーション能力向上、問題解決力



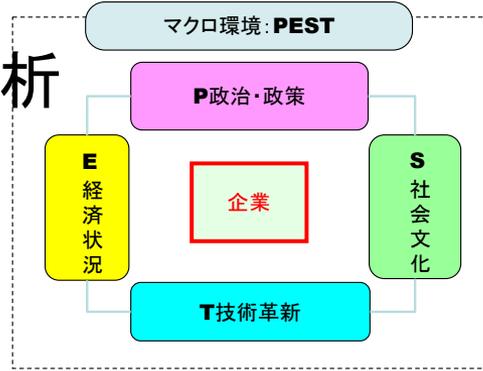
**Balanced Score Card**



**ビジネスモデルキャンバス**



## PEST分析



## 0.8. ケース研修のモデル企業

### ケース研修のモデル企業

- ケース研修で利用するモデル企業は「**インテリアライフ社**」という旧態依然とした組織の設定で描いた架空の「インテリア製品の卸売業」
- 「インテリアライフ社」は、赤字すれすれの経営状況から情報システムを使って業務改革を行った事例をベースに設定。



※当該企業の写真ではありません

## 0.9. ケース研修を始める前に



### グループ(チーム)演習の留意点

- インテリア製品の卸売という特定な業界をモデルにしたケースのため、業界の背景や設定などに着目してしまい、「木を見て森を見ず」という状況になる可能性がある。
- 受講者は、インテリア業界コンサルタントになるのではなく、**ITコーディネータになるためのケース研修**を受講しているので、「実際の『インテリア業界』はこうではない」とか、「政府の製造業支援政策は・・・」とか、「海外の『インテリア業界』は、...」といった議論に嵌り、**IT経営プロセス**を実現する課題の検討が進まなくなるようなことは避けるべき。
- ケース研修を円滑に進めるために、特殊な業界問題に陥ることなく、チームメンバー全員が課題上の役割を担い、**積極的に議論に参加し、前向きで建設的なIT経営を実現させる成果物**を作成すること。



# 0.10. ケース研修の進め方



ケース研修の前(参加要件)

プロセスガイドラインの理解とモデル企業の状況把握



ケース研修中

1. プロセスガイドラインの進め方(プロセス)と基本原則を適用したチーム演習に積極的に参加し、モデル企業のIT経営実現に向けた新たな気づきを獲得する
2. チーム内の役割分担を公平に担い、前向きで建設的な成果物の作成を通じて、モデル企業のIT経営実現に向けたツールと成果物を学習する

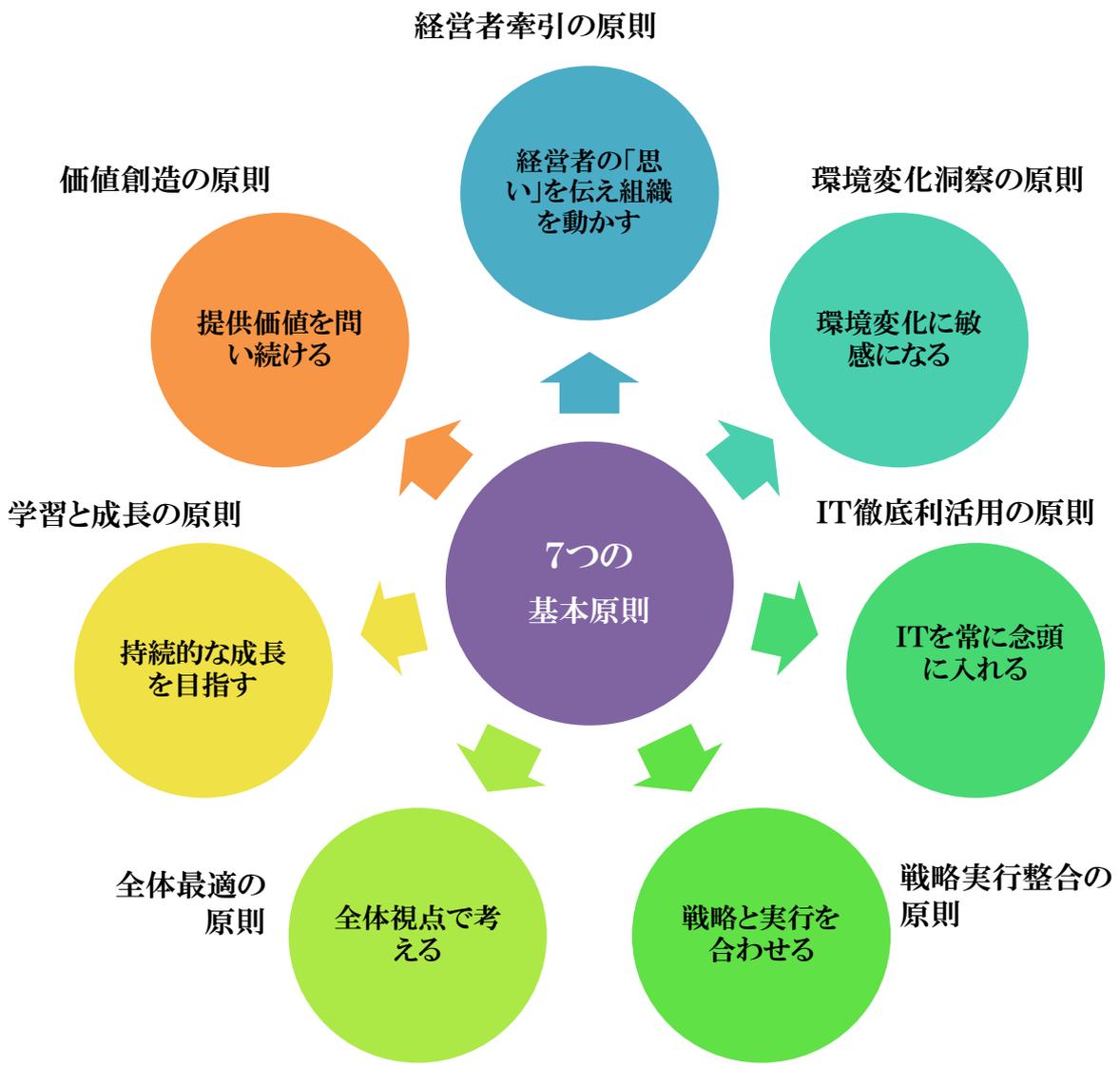


ケース研修の後

各ステージの終わりに、「構想書」や「企画書」を作成するレポート課題があり、各プロセスの成果物とプロセスガイドラインの進め方(プロセス)と基本原則の理解を深める

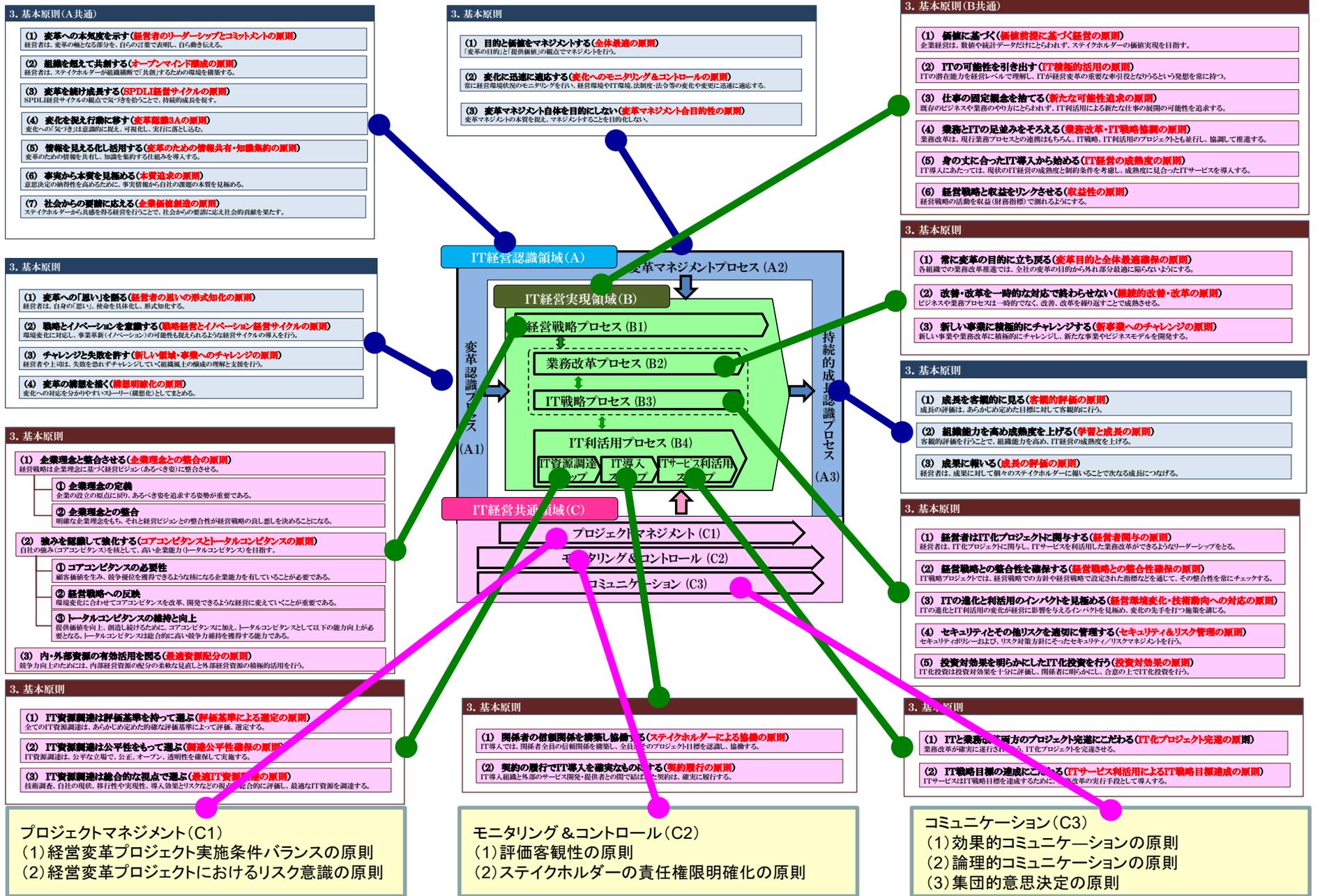
# 0.11.IT経営を成功に導く7つの基本原則

原則



IT経営推進の  
際の判断基準

# 0.12. 領域・プロセス・ステップと原則の関連



### 3. 基本原則 (A共通)

- 変革への本気度を示す (経営者のリーダーシップとコミットメントの原則)**  
経営者は、変革の軸となる部分を、自らの言葉で表明し、自ら動き始める。
- 組織を揺れて共創する (オープンマインド醸成の原則)**  
経営者は、ステークホルダーが組織課題で共創しやすくなる環境を構築する。
- 変革を続け成長する (SPDII経営サイクルの原則)**  
SPDII経営サイクルの観点で気づきを得ることで、持続的成長を促す。
- 変化を親実行動に移す (変革推進3Aの原則)**  
変化への気づきは意識的に捉え、可視化し、実行に落とし込む。
- 情報を見える化し活用する (変革のための情報共有・知識集約の原則)**  
変革のための情報を共有し、知識を集約する仕組みを導入する。
- 事実から本質を見極める (本質追求の原則)**  
意思決定の持続性を高めるために、事実情報から自社の真実の本質を見極める。
- 社会からの要請に応える (企業価値創造の原則)**  
ステークホルダーから共感を得る経営を行うことで、社会からの要請に応え社会的貢献を果たす。

### 3. 基本原則

- 変革への「思い」を語る (経営者の思いの形式化の原則)**  
経営者は、自身の「思い」を、改めて具体化し、形式化する。
- 戦略とイノベーションを宣言する (戦略経営とイノベーション経営サイクルの原則)**  
環境変化に対応し、事業革新(イノベーション)の可能性も捉えられるような経営サイクルの導入を行う。
- チャレンジと失敗を許す (新しい領域・事業へのチャレンジの原則)**  
経営者や上司は、失敗を恐れずチャレンジしていく組織風土の醸成の理解と支援を行う。
- 変革の進捗を指く (進捗可視化の原則)**  
変化への対応を分かりやすいストーリー(図表化)してまとめる。

### 3. 基本原則

- 企業理念と整合させる (企業理念との整合の原則)**  
経営戦略は企業理念に基づき経営ビジョン(あるべき姿)に整合させる。
  - 企業理念の定義**  
企業の設立の原点にあり、あるべき姿を追求する姿勢が重要である。
  - 企業理念との整合**  
明確な企業理念をもち、それと経営ビジョンとの整合性が経営戦略の良し悪しを決めることになる。
- 強みを認識して強化する (コアコンピタンスとトータルコンピタンスの原則)**  
自社の強み(コアコンピタンス)を核として、高い企業能力(トータルコンピタンス)を目指す。
  - コアコンピタンスの必要性**  
顧客価値を生み、競争優位を獲得できるような確かな企業能力を有していることが必要である。
  - 経営戦略への反映**  
環境変化に合わせてコアコンピタンスを改革、開発できるような経営に代えていくことが重要である。
  - トータルコンピタンスの維持と向上**  
従来強みを向上し、相違し続けるために、コアコンピタンスに加え、トータルコンピタンスとして以上の能力向上が必要となる。トータルコンピタンスは総合的に高い競争力維持を獲得する能力である。
- 内・外資源の有効活用を図る (最適資源配分の原則)**  
競争力向上のためには、内部経営資源の配分の柔軟な見直しと外部経営資源の積極的活用を行う。

### 3. 基本原則

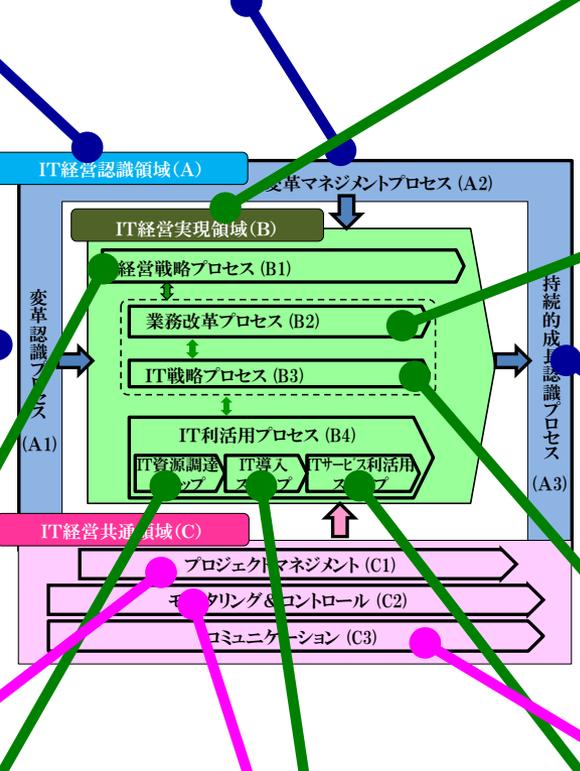
- IT資源調達は評価基準を持って選ぶ (評価基準による選定の原則)**  
全てのIT資源調達は、あらかじめ定められた評価基準に基づき評価、選定する。
- IT資源調達は公平性をもって選ぶ (調達公平性確保の原則)**  
IT資源調達には、公平な立場で、公正、オープン、透明性を確保して実施する。
- IT資源調達は総合的な視点で選ぶ (最適IT資源調達原則)**  
技術調査、自社の現状、移行性や実現性、導入効果とリスクなどの観点から総合的に評価し、最適なIT資源を調達する。

### プロジェクトマネジメント (C1)

- 経営変革プロジェクト実施条件バランスの原則
- 経営変革プロジェクトにおけるリスク意識の原則

### 3. 基本原則

- 目的と価値をマネジメントする (全体最適の原則)**  
「変革の目的」と「提供価値」の観点でマネジメントを行う。
- 変化に迅速に対応する (変化へのモニタリング&コントロールの原則)**  
常に経営環境状況のモニタリングを行い、経営環境やIT環境、法制度・法令の変化や変更に応じて迅速に対応する。
- 変革マネジメント自体を目的にしない (変革マネジメント目的性の原則)**  
変革マネジメントの本質を捉え、マネジメントすることを目的にしない。



### 3. 基本原則

- 関係者の信頼関係を構築し協働する (ステークホルダーによる協働の原則)**  
IT導入では、関係者全員との信頼関係を構築し、全員、そのプロジェクト目標を認識し、協働する。
- 契約の履行でIT導入を確実にものとする (契約履行の原則)**  
IT導入組織と外部のサービス開発・提供者との間で結ばれた契約は、確実に履行する。

### モニタリング & コントロール (C2)

- 評価客観性の原則
- ステークホルダーの責任権限明確化の原則

### 3. 基本原則 (B共通)

- 価値に基づく (価値前提に基づく経営の原則)**  
企業経営は、数値や統計データだけでなく、ステークホルダーの価値実現を目指す。
- ITの可能性を引き出す (IT積極的活用の原則)**  
ITの潜在能力を経営レベルで理解し、ITが経営変革の重要な牽引役となるよう意思を常に持つ。
- 仕事の固定概念を捨てる (新たな可能性追求の原則)**  
既存のビジネスや業務のやり方にとらわれず、IT活用による新たな仕事の展開の可能性を追求する。
- 業務とITの足並みをそろえる (業務改革・IT戦略協働の原則)**  
業務改革は、現行業務プロセスとの連携はもちろん、IT戦略、IT活用のプロセスとも並行し、協調して推進する。
- 身の丈に合ったIT導入から始める (IT経営の成熟度の原則)**  
IT導入にあたっては、現状のIT経営の成熟度と制約条件を考慮し、成熟度に見合ったITサービスを導入する。
- 経営戦略と収益をリンクさせる (収益性の原則)**  
経営戦略の活動を収益(財務指標)で測れるようにする。

### 3. 基本原則

- 常に変革の目的に立ち戻る (変革目的と全体最適確保の原則)**  
各組織での業務改革推進では、全社の変革の目的から外れ最速に陥らないようにする。
- 改善・改革を一時的な対応で終わらせない (継続的改善・改革の原則)**  
ビジネスや業務プロセスは一時的でなく、改善、改革を繰り返すことで成熟させる。
- 新しい事業に積極的にチャレンジする (新事業へのチャレンジの原則)**  
新しい事業や業務改革に積極的にチャレンジし、新たな事業やビジネスモデルを開発する。

### 3. 基本原則

- 成長を客観的に見る (客観的評価の原則)**  
成長の評価は、あらかじめ定めた目標に対して客観的に行う。
- 組織能力を高め成熟度を上げる (学習と成長の原則)**  
客観的評価を行うことで、組織能力を高め、IT経営の成熟度を上げる。
- 成果に報いる (成長の評価の原則)**  
経営者は、成果に対して関わるステークホルダーに報いることで次なる成長につなげる。

### 3. 基本原則

- 経営者はIT化プロジェクトに関与する (経営者関与の原則)**  
経営者は、IT化プロジェクトに関与し、ITサービスを活用した業務改革ができるようリーダーシップをとる。
- 経営戦略との整合性を確保する (経営戦略との整合性確保の原則)**  
IT戦略プロジェクトでは、経営戦略での方針や経営戦略で設定された指標などを通じて、その整合性を常にチェックする。
- ITの進化と利活用のインパクトを見極める (経営領域変化・技術動向への対応の原則)**  
ITの進化とIT活用の変化が経営に影響を与えるインパクトを見極め、変化の先手を持つ施策を講じる。
- セキュリティとその他リスクを適切に管理する (セキュリティ&リスク管理の原則)**  
セキュリティポリシーおよび、リスク対策方針としてセキュリティリスクマネジメントを行う。
- 投資対効果を明らかにしたIT化投資を行う (投資対効果の原則)**  
IT化投資は投資対効果を十分に評価し、関係者に明らかにし、合意の上でIT化投資を行う。

### 3. 基本原則

- ITと業務の両方のプロジェクト完成にこだわる (IT化プロジェクト完成の原則)**  
業務改革が優先に進行させ、IT化プロジェクトを完成させる。
- IT戦略目標の達成にこだわる (ITサービス活用によるIT戦略目標達成の原則)**  
ITサービスはIT戦略目標を達成するために、業務改革の先行手段として導入する。

### コミュニケーション (C3)

- 効果的コミュニケーションの原則
- 論理的コミュニケーションの原則
- 集団的意思決定の原則

# 0.13.ITキャパチャージに登録しておきましょう

<https://www.keyman.or.jp/itcc/>

「1日1問」仕事に役立つ知識を充電

## ITキャパチャージ

「ITキャパチャージ」は、IT担当者のスキルアップに役立つ問題を、ジャンルごとに1日1問ずつ出題します。IT初心者でも分かる丁寧な解説付きで、過去の問題にも挑戦できます。たったの3分！ あなたのキャパシティにIT知識をチャージ（充電）しましょう。

[より詳しい説明はこちらから](#)

### ITキャパチャージ INDEX

#### ベーシック

ITキャパチャージ ベーシックでは、「基本情報技術者試験」や「ITパスポート試験」で出題された過去問とその解説を学ぶことで、IT全般の基礎知識を身に付けられます。

#### データベース

ITキャパチャージ データベースでは、「ORACLE MASTER Bronze」の練習問題とその解説を学ぶことで、データベース管理の基礎知識を身に付けられます。

#### ITコーディネータ

ITキャパチャージ ITコーディネータでは、「ITコーディネータ試験」の模擬問題とその解説を学ぶことで、ITコーディネータになるための基礎知識を身に付けられます。

#### Security+

ITキャパチャージ Security+では、「CompTIA Security+」の模擬問題とその解説を学ぶことで、セキュリティの基礎知識を身に付けられます。

**3** ポイント

うち2021年12月末に失効 **0**ポイント

[キーマンズポイントとは](#)

# ITC試験対策



## 0.Q.1.IT経営の定義とは？

**IT経営とは何か。**

- ア. **IT**を活用した経営ビジョンを策定し、ステイクホルダーに明確に理解できる形にする経営手法である。
- イ. **IT**経営とは、経営環境の変化を洞察し、戦略に基づいた**IT**の利活用による経営変革により、企業の健全で持続的な成長を導く経営手法である。
- ウ. **IT**利活用意識をもって経営者に接し、いち早く最先端の**IT**導入の施策を経営者に助言または支援を行う手法。
- エ. 他社で実績のある**IT**利活用をベンチマークし、自社の経営戦略の基幹戦略として採用し実践する経営手法。

**0.はじめに**

**END**